広報やすぎ　令和4年12月号

まちのタカラ

荒島地区のイチオシ！

地元のお米を後世へ
～豊作への願いの結晶　亀治米～

▲くわを持った広田亀治の木像。荒島小学校のくらしの部屋に保管されています。
◀稲刈りをする荒島小学校の５年生。長いもので身長ほどある稲穂に埋もれながらも、真剣に作業に取り組みました。

荒島地区では珍しいお米が栽培されています。品種改良に取り組んだ広田亀治にちなみ、亀治米と呼ばれるお米です。亀治は不作に苦しむ農民のため、長い時間地道に米の品種改良を行った人物で、明治３年に元となる稲を発見し、５年かけ新品種として亀治米を完成させました。亀治米は収穫量低下につながるイモチ病に強く、稲穂にもみが多くつくことから、西日本を中心に半世紀にわたり多くの地域で栽培されました。

亀治米は、他品種の普及に従い生産者が減少し、安来でも長らく作られていませんでした。しかし、郷土の農作物を絶やしたくないという思いから、平成７年に地域住民が種もみを探し出し、栽培が再開されました。作り手は荒島小学校の子どもたち。５年生が亀治についての学習と、荒島地区活性化推進協議会の支援を受け米作り体験をしています。

10月11日には稲刈りが行われ、23人の子どもたちが参加。稲刈りは初めての子どもがほとんどで、鎌の扱いや稲を束ねるのに苦戦しながらも、およそ２a、３，０００株の稲を収穫しました。田を管理している原田吉郎さんは「２年前から田植えと稲刈りだけでなく、種蒔きから体験してもらうようになりました。農業や自分たちが住んでいる荒島に関心・愛着を持つきっかけになってほしいです」と米作り体験への想いを語りました。

編集後記

▼気象庁では12月からの天気について、例年よりも低い気温になる確率が高いと予報しています。降雪量も多くなりそうですね。この編集後記を書いているのは10月ですが、すでに朝晩は冷え込むようになりました。忙しくなりがちな師走でも、気持ちに余裕を持って、積雪に備えて早めの準備を心がけたいです（岩）

▼３日間かけて行われた「古代たたら復元操業」。炉の壁を作るところから始め、炉の構造や原料となる砂鉄と木炭の反応から鋼（はがね）の生成まで、鉄づくりの流れを学ぶことができるのが特徴です。純度の高い鉄を生成するには、時間をかけ、体力と根気が必要。ものづくりの原点を垣間見ることができました（つ）

安来市の人口と世帯数　R4.10.31現在

人口合計／　36,497人
（男:17,561人　女:18,936人）
世帯数／14,283世帯

●広報紙にあなたの写真が載りましたら、差し上げますのでご連絡ください。
●自治会宛の発送等については、地域振興課（☎23-3067）までご連絡ください。

VEGETABLE OIL INK

秘書広報課編集／安来市役所　〒692-8686島根県安来市安来町878-2　電話:23-3010／FAX:23-3161
ホームページhttps://www.city.yasugi.shimane.jp
メール:hisho@city.yasugi.shimane.jp